

編集後記

会誌第一二五号は、担当者の都合で大幅に遅延、急拠交替
しての刊行。お許し願いたい。

巻頭には真野和夫氏の宇佐宮境内絵図についての考察をい
ただいた。宇佐宮の研究は、わが国の歴史研究の主要な部分
を構成するものでありながら、ご案内のとおりナゾに包まれ
た事が余りにも多い。この解明のためには、例えば「宇佐宮
託宣集」の史料としての分折・考察が必要であるが、いわば
不問に付されたままである。同様なことは「宇佐宮境内絵図」
の史料としての活用についてもいえることであるが、考古学
の立場から絵図を史料として考察したこの論考は、貴重であ
る。続編が待望される。

一方、「くにさき研究」についても諸史料の批判・分折が
切望され、小泊立矢氏の論考が注目されているが、この内小
野名についての安藤信郎氏の研究も貴重である。同様、続編
を楽しみにしたい。

清和・入江両長老の作品は、今後の研究を示唆して余りあ
るものであり、その他の新進の諸氏のものも有難い労作であ
る。お礼申して後記とする。

昭和六十二年三月二十五日 印刷
昭和六十二年三月三十日 発行

大分県地方史 第二五号

編集者 後藤正二

発行者 渡辺澄夫

印刷者 中尾寿孝

別府市中央町九一五

印刷所 日の丸印刷株式会社

(電話 2334)

発行所

〒八七〇一一 大分市且ノ原七〇〇

大分大学教育学部国史研究室内

大分県地方史研究会

(振替・下関八一五二九四番)